



目撃! にっぽん

和解の島

～ハンセン病・対話の先に～

放送日: 2020年4月5日 放送時間: 34分

対象校種 小学校高学年以上 中学校 高校

対象教科 社会 道徳

この番組の良さ

- ハンセン病元患者や地域住民の証言から、差別の実態を知ることができる。



国立療養所「沖縄愛楽園」はハンセン病患者を隔離していた施設です。一時1000人ほどいた入所者は、当時の屋我地島済井出地区の地区住民からの偏見や差別を受けてきました。元患者からは「殴られたり石を投げられたりした。」ことや地区住民からは「愛楽園では息を止めなさい。」と親から言われたなどと、赤裸々な証言が出されます。また、当時の国の旧優生保護法により、「流産」とさせられた事実を話す、元患者の言葉により、今まで語られることがなかった真実が浮かび上がります。

- ハンセン病元患者と地域住民の交流に、共生社会に向けた希望を感じることができる。

済井出地は愛楽園のすぐ隣にありながら、これまで、住民と元患者との交流はほとんどありませんでした。しかしながら、愛楽園自治会長の金城雅春さんと済井出区長の金城薫さんを中心に始まった対話をきっかけに、和解の道を探ることになります。番組の中では、元患者の金城雅春さんと地区住民とが、「いいことも悪いこともどんどん出してください」という呼びかけの下で、今まで語られることがなかったそれぞれの思いが語られます。「未来は自分の気持ち一つで変えられる、つながれない時期があったからこれからつながれる」という言葉に、これからの共生社会の原点を見ることが出来ます。

番組活用のポイント

- 基本的人権の学習や人権教育の推進に効果的な教材

本番組は中学校社会科公民分野「基本的人権」の学習や、人権教育の推進のための教材としての活用が考えられます。公民分野では、世の中に多くの差別があることを知り、その対策として国際連合および国が規約や法律を策定し、様々な対策を取っていることを学習します。ハンセン病が伝染するという間違った理解により、いわれのない不当な差別が存在したことは、教科書や資料集にも記述されています。そこで、本番組を視聴することにより、差別された側とした側の両者の思いや後悔の気持ちなどを知り、共生社会の在り方について考えるきっかけにしていくとよいでしょう。このことは、多様な人々の考えや生き方の背景を知り、自他の人権を尊重しながら、多様な人々と協働して生きていこうとする気持ちを育むことにつながる教材となることでしょう。

- 地区住民も差別や偏見を受けていたことを知るにより、差別の歴史を多面的に考察できる。

愛楽園の入所者が受けた偏見や差別は、児童生徒にとって衝撃的な事実として受けとめられることでしょう。それだけではなく、番組後半では地区住民も差別を受けた事実を知ることになります。「さとうきび、魚など買い手がつかない」、「屋我地島出身と分かり職を解雇された」など島民が大変な思いをしてきたことが語られます。元患者の金城さんが「最初は何を言ってるんだと思っていたけれど、いろいろ聞いてみると理解できるようになった。」と話す姿から、ハンセン病がもたらした負の歴史を多面的に考察することが出来ます。

また、かけがえのない命の大切さについて考えるために、道徳の「生命の尊さ」の内容項目の教材としての活用が考えられます。番組内のハンセン病患者に対する差別の事例から、現代社会に見られる様々な病気や障害に苦しむ人々の思いにつながることで、命の大切さをより広く考えることができることでしょう。



執筆者
藤里町立藤里中学校
教諭 嵯峨静人

対象校種


小学校

対象教科

道徳

ハンセン病患者と地元住民の対話は成立するか？

[授業時間 45分] 部分視聴

児童生徒の思考と活動の流れ	教師の支援と評価
<p>沖縄県屋我地島にハンセン病患者を隔離していた施設があった。患者たちが石を投げられたり罵声を浴びせられたり多大な差別を受けてきたことをどう思いますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ハンセン病患者の施設が沖縄の離島にあったことや差別を受けていたことを説明し、意見を聞く。
<p>人間として許せない行動をしている</p> <p>差別や偏見をもつことはあってはならない</p>	
<p>施設の入所者と地区住民との対話が始まったことを説明し、疑問を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実態に応じて補説し、法律が廃止され国が誤りを認めたのにも関わらず、未だに差別が解消されない事実を伝える。
<p>急に共生はできないだろう</p> <p>何からどう始めればよいのだろう</p>	
<p>差別や偏見をなくし、互いの人権を守り共生していくためにはどのようにしていけばよいのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の言葉で学習問題を設定する。
<p>地区住民と入所者が交流すればよいのではないか</p> <p>本音で語り合う場を作ればよいのではないか</p>	
<p> 番組全視聴34分</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の求めに応じて番組を全視聴するが、視聴する視点を3つ指示し、視聴後の話し合いにつなげる。
<p>対話の内容</p> <p>入所者の過去と現在</p> <p>地区住民の愛楽園に対する思い</p>	<p>①対話の内容</p> <p>②入所者の過去と現在</p> <p>③地区住民の愛楽園に対する思い</p>
<p>過去は変えられないが、未来は変えられる。過去を乗り越えるためにも対話は続けなければならない</p> <p>帰る場所がなく124人が現在も入所している。過去に流産させられた悲劇もあった</p> <p>ハンセン病患者に対する差別があったが、我々も他地区から差別を受けてきた</p>	
<p>共生に向けて、今後、愛楽園の人と地区住民は、どのような関係を築いていくべきかと問う</p>	
<p>雅春さん以外の人たちともできる範囲で交流していくべき</p> <p>元患者と地区住民のわだかまりを乗り越え、未来に向けた関係を築くべき</p>	
<p>ハンセン病元患者の人たちは、日本国内で差別を受け、多大な被害を受けてきた。済井出地区の住民と入所者が過去を乗り越え、これからも対話を続けることで共生社会の実現を目指すことが求められている。</p>	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ハンセン病元患者の人たちが歩んできた歴史と地区住民とのこれまでの関係を番組視聴から考察し、発表できる。また、日本の今後の共生社会の在り方について、どうあるべきか自分の言葉でまとめることができる。
<p>ハンセン病元患者の人権保護に関する国の政策について、もう少し詳しく調べてみたい</p>	